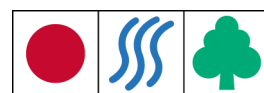


自：2025年4月1日
至：2026年3月31日



NCAJ

National Camping Association of Japan

事業報告書2025



「ちょっといい春感じませんか」選べるハイキング・春のふもと探検隊

公益社団法人 日本キャンプ協会

目 次

2025年度事業総括	1
キャンプの活動を発展させ、広めていく事業(公益目的事業1)	2
1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務	
2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営(自然体験活動実践の場の提供)	
3. 地域の関係団体との連携	
4. 青少年教育団体との連携	
5. 国際事業の取り組み(国内外の情報収集と国際的な人材育成)	
6. 都道府県キャンプ協会の事業連携 ～「ビジョン 2025」5 年目(最終仕上げの年)～	
7. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施	
8. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備	
9. グッドキャンパーキャンペーンの実施	
よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業(公益目的事業2)	13
1. 公認指導者養成	
2. キャンプ指導者・団体の審査・認定・更新と目標数	
3. 指導者養成のためのテキスト発行	
4. 課程認定団体研修会	
5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会・事務局担当者会	
6. 課程認定団体の増強への取り組み	
7. 指導者養成制度の改定と活用	
8. 教育現場との新たな協働	
9. 指導者資格が活動する機会の提供	
10. 安全に関する啓発活動	
11. 「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」の策定	
キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業(公益目的事業3)	19
1. 第 29 回日本キャンプミーティングの開催	
2. 定期刊行物『キャンプの実践と研究』(PDF 版)	
3. キャンプ・カンファレンスの開催	
法人事務	23
1. 諸会議の開催と参加	
2. 都道府県キャンプ協会との連携	
3. 日常法人業務	
4. 各種団体への主な後援	
CAMPING AWARD 2025 受賞者	26
公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025 年度 役員	32
公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025 年度 運営委員	33
日本キャンプ協会職員・静岡県立朝霧野外活動センター職員	36

2025 年度事業総括

2025 年度は、ビジョン 2025 の最終年度にあたり、アクションプランの目標を達成するために、積極的な取り組みを展開しました。人権尊重に対する考え方が大きく進展し、指導者の在り様が問われる時代になり、「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」を策定し、指導者のハラスメントの理解に努めました。新規の指導者養成数が減少傾向にある指導者養成事業においては、現行の資格制度の見直しを検討し、新資格制度の方針を策定しました。しかしながら、協会を取り巻く状況は、会員数の減少、指導者会員の高齢化、組織キャンプの縮小化など、年々厳しい局面に移行しています。こうした状況をふまえ、今後の協会運営はどの様にあるべきか、抜本的な組織改革をいかに進めるべきか、改めて考えさせられた 1 年となりました。

< キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業 1） >

公益目的事業1は、キャンプ関連情報の発信とキャンプの実践を継続して行った。会報誌『CAMPING』や SNS などを通じて、会員や一般市民に国内外のキャンプ関連情報を積極的に発信することができた。朝霧野外活動センターは、第5期指定管理の初年度を迎え、グループ4団体の協働により、円滑なセンター運営に努め、キャンプやイベントに多くの利用者があった。3年目の「グッドキャンパーキャンペーン」はステッカーを継続配布し、イベント会場等でアピールを続け、目標数 15,000 人には届かなかったが、12,857 人の賛同を得たことができた。

< よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業 2） >

公益目的事業2は、キャンプインストラクターの養成数が初めて 1,000 名を割り、957 名という結果に終わった。キャンプディレクター2級の養成は講習会の参加者数が伸び悩み、中止になる会場が増えて、新規の養成数は 65 名に減少した。キャンプディレクター1級の養成は前年の 26 名より増加したが、ほぼ横ばいの 29 名に留まった。安全対策委員会が中心となり、ハラスメントの防止対策として、「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」を策定し、指導者研修会やビジョン推進事業などで学びを深めた。資格制度検討タスクは、現行の資格制度の検証を行い、新しい資格制度の指針を提案し、カリキュラムの改訂に着手した。

< キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業 3） >

第 29 回日本キャンプミーティングは、昨年に続き「もっとつながる」をテーマに、関係団体やユースに積極的に参加を働きかけ、多くの参加者が集い、充実した大会となった。「キャンプの実践と研究」は、投稿形式を変更したことにより、多くの実践的な報告を掲載することができた。2年目のキャンプカンファレンスは、キャンプディレクターの研鑽と交流の場として広がりを見せている。

< 法人事務 >

法人事務は、会員管理や経理業務を中心に、滞りがないよう適正な運営に努めた。また、就業に関する法令変更に伴う規程の改定は、社会保険労務士の協力を得ながら、総務委員会や執行理事会と連携して適切に対処した。役員や事務局体制は移行期にあり、協会運営に支障をきたさないように引継ぎを行った。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1）

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業は、キャンプに対する社会の見方が拡がりをみせる中、キャンプがもつ様々なチカラを発信し続け、キャンプの可能性や素晴らしさを社会に伝えることに尽力した。

1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌『CAMPING』の発行、Web サイト、SNS、メールマガジンなどを活用し、常に最新のキャンプ情報の収集と発信に努めた。キャンプに関する相談窓口であるキャンプインフォメーションセンターは、行政機関、民間企業、マスコミ、一般市民からの問い合わせなどに、丁寧に対応を行った。

（1）会報誌『CAMPING』の発行

昨年度に引き続き、独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成金事業として紙面の充実を図り、会報誌『CAMPING』を年4回、季刊発行した。当年度は、中期事業計画「ビジョン 2025」の総仕上げの年であることを踏まえ、年間テーマを「2025 キャンプのこれから」と定め、現代のキャンプを取り巻く課題と組織キャンプの可能性とを結び付けながら、未来に向けた取り組みの在り方を探った。

発行部数：各号 約 10,000 部

No	発行日	特 集
212	4 月 15 日	キャンプと気候変動
213	7 月 15 日	教育キャンプを支えるお金：資金調達と事業成功のヒント
214	10 月 15 日	キャンプで培う“これからの社会を”生き抜く力
215	1 月 15 日	体験活動の場をどう守るかー変化に柔軟に対応する施設運営のヒントー



会報誌『CAMPING』

（2）Web サイト及び公式 Facebook ページ、Instagram の運用

Web サイトや SNS を活用し、国内外の最新のキャンプ情報等を積極的に発信してきたものの、Web サイトの表示回数は前年度比で約 23% 減少した。主要なアクセス先である指導者資格の紹介ページでは約 36% 減、同じくアクセスの多いキャンプの効果と意義を紹介するページでは約 62% 減となった。また、約 66 万回表示されていた 2022 年度・2023 年度と比較すると、全体で約 46% の減少となっている。キャンプブームの沈静化や AI による検索機能の普及が背景にあると思われる。なお、SNS のフォロワー数については、Facebook は横ばいで推移する一方、Instagram は約 100 人増加した。

Web サイト：<https://camping.or.jp>

Facebook ページ：<https://www.facebook.com/ncaj.sns>

Instagram ページ：<https://www.instagram.com/ncaj1966>

Web サイト表示回数：約 380,000 回

Facebook 閲覧数：約 47,000 回、フォロワー数：約 2,100 人、女性：約 27% 男性：約 73%

Instagram 閲覧数：約 18,000 回、フォロワー数：約 300 人、女性：約 24% 男性：約 76%

※仕様変更により昨年と異なる項目を掲載しています。

(3) メールマガジンの配信

日本キャンプ協会の情報提供サービスの一環として、会員及びキャンプやアウトドアに関心のある一般の方に向けて、イベント情報やキャンプのノウハウなどを盛り込んだメールマガジン「CAMPING News」を定期的に発信した。購読者数は前年度に引き続き拡大傾向にあり、累計数は前年度比で約 2.5%増加となっている。

発行回数：毎月第 1 金曜日発信

購読者累計数：約 28,600 人、月平均：約 2,390 人

(4) キャンプインフォメーションセンター

アウトドアブームが落ち着き、レジャーキャンプ系の問い合わせ数は減り、指導者派遣やキャンプの安全情報の提供などが多くなった。また、「豚熱ウイルス」「林野火災」「クマ被害」の対処法など、社会状況を反映した相談が目立つようになり、野外活動団体の法人として、一定の役割を果たすことができた。

<主な問い合わせ内容>

内容	クライアント	依頼内容
指導者派遣	青少年育成つくばみらい市民会議	小学生向けのキャンプイベントの指導
その他/相談	都内中学校教諭	安全なキャンプの小冊子の配布
指導者派遣/相談	(株)HIS	大学のキャンプ実習への指導者派遣
その他/相談	総務省消防庁安全局動物衛生課	豚熱ウイルスの感染防止対策の広報協力要請
その他/相談	総務省消防庁	火災予防条例改正に向けたヒアリング
その他/相談	イングリッシュアドベンチャーキャンプ/ パノラマ合同会社	クマ被害によるキャンプキャンセルへの対応策
調査/監修/原稿執筆	桃山学院大学	防災キャンプに関する実態調査の協力依頼

対応件数：17 件

内 訳：指導者派遣 3 件、取材/出演 3 件、企画/助言 1 件、

調査/監修/執筆 1 件、その他/相談 9 件

過去 5 年間の推移（参考）

	2021	2022	2023	2024	2025
指導者派遣	26	25	4	2	3
取材/出演	26	13	16	4	3
企画/助言	18	16	14	2	1
調査/監修/執筆	12	8	2	0	1
その他/相談	14	11	5	2	9
合計	96	73	41	10	17

2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

静岡県教育委員会社会教育課が所管する施設である静岡県立朝霧野外活動センター（以下“センター”という）を、県内の野外教育関係3団体と協働し、日本キャンプ協会グループとして運営した。センターの第5期指定管理期間の初年度となる2025年度は、411団体と175回の主催事業の開催により、54,945人が施設を利用した。前年度とほぼ同数で、施設が十分に活用され、順調な一年間だった。静岡県は、現在、県立の青少年教育施設をセンターを含め4施設保有しているが、今年度、その中の一つである観音山少年自然の家を将来的に廃止し、3所体制へと縮小することが決まった。人口減少の流れの中、静岡県内の野外教育を取り巻く状況は変化を続けている。小学校における集団宿泊的行事の日数短縮が進み、1泊2日又は日帰りの日程で、宿舎を利用して実施する形が多くみられる。中学校では、子供たちの体験不足に対応するために、改めてテント泊を含むキャンプ体験を取り入れる学校が少しずつ増えている。また、教員の世代交代が進む中、野外教育に触れた経験のない若い教員が増え、学校としてそれらの行事を運営することが難しくなっている状況があるなど、特に学校の利用に関して、これまでとは異なる形での支援を行う必要が生まれている。センターでは、日本キャンプ協会が運営する野外教育実践の場としてこれらの状況に対応しつつ、キャンプ並びに自然体験活動の普及と振興に取り組むことを目指し、静岡県内を中心とした社会教育団体及び学校団体等が実施する活動の支援に努めた。また、2026年度からの実施を目指し、県教育委員会と連携した教員をメインターゲットとしたキャンプインストラクター養成講習会の計画策定を進めた。日本キャンプ協会が2026年度に設立60周年を迎えることを受け、その記念行事開催に協力するため、開催日程の調整や静岡県民を対象とした関連事業の企画等についての準備を進めた。

（1）自然体験活動事業の実施

静岡県に提案した指定管理期間(5年)の事業計画に沿って、様々な人々に向けた自然体験活動の機会を提供した。2025年度は、主に以下の2点について取り組んだ。

1) キャンプを推進する人・キャンプの案内人を養成するため、3つの野外教育指導者養成事業(大学生を対象としたもの、一般の人を対象としたもの、センターの利用団体の指導者を対象としたもの)を開催した。また、センターの利用団体の指導者を対象とした事業である「野外活動プログラム実習」について、2026年度以降に教職員を対象とした、キャンプインストラクターを取得可能な事業に内容を変更して開催するための準備を進めた。2027年度以降から教職員が参加しやすいよう、県教育委員会の協力を得られる見込みとなった。(アクションプラン①)

2) 富士山の噴火や南海トラフ地震の発生を想定し、発災後の避難生活等に役立てることを想定した新規事業「春のあさぎり満喫キャンプ～キャンプって防災だ！」の実施に向けて、「ふじのくに防災士」の資格を取得し、2027年度からの事業開催を目標に、事業内容を検討するなどの準備を進めた。(アクションプラン②)

青少年自然体験事業 <静岡県委託事業>

事業名	日 程	対 象	参加人数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月6日 事前研修会 8月8日～16日	小学5年生から 中学3年生	116 58

野外教育指導者養成事業 <静岡県委託事業>

事業名	日 程	対 象	参加人数
野外活動担当者研修会	—	利用団体の担当者及び指導者	実施見送り
野外活動プログラム実習	8月4日～5日	教員、利用団体の担当者及び指導者	1
長期キャンプ指導者養成講習会	6月14日～15日 7月12日～13日 8月8日～16日 10月11日～12日	専門学校生、 短大生、 大学生	6
野外教育指導者養成講習会	2026年 2月6日～8日	野外教育に興味のある人、 青少年団体の指導者、教育関係者	18

県民自然体験事業 <自主事業>

事業名	日 程	対 象	参加人数
ちょっといい春感じませんか	4月26日～27日	家族・小グループ	152
春の朝霧満喫キャンプ ～キャンプって防災だ!～	—	家族・小グループ	実施見送り
ナヴィゲーション スポーツ・キャンプ in 朝霧	朝霧マウンテン オリエンテーリング はじめてのナヴィゲーションゲーム	9月6日～7日	競技者及び愛好者
		9月6日～7日	家族・小グループ
ステキな秋をあなたに	10月4日～5日	家族・小グループ	135
オリエンテーリング in 朝霧	11月29日～30日	家族・小グループ	267
スケートキャンプ	11月14日～15日	家族・小グループ	31
	12月5日～6日		30
	2026年1月16日～17日		58
	2026年1月23日～24日		59
	2026年2月13日～14日		60
	2026年3月6日～7日		53
春の星空探訪	2026年2月27日～28日	家族・小グループ	86

施設開放事業 <自主事業>

事業名	日 程	対 象	参加人数
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計26日 50回 1,051
スケート一般開放	11月～3月の 原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計28日 61回 4,884人

スケートフェスティバル in あさぎり	11月3日 ----- 2026年3月8日	家族・小グループ	111 113
朝霧カーニバル	11月9日	家族・小グループ	885
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日又は木曜日	センター周辺の小学校(5校) と中学校(2校)に通う児童 生徒及び家族	計 20 日 215

社会問題に対応した事業 <自主事業>

事業名	日 程	対 象	参加人数
朝霧高原ホッとキャンプ	2026年2月 14日～15日	不登校児童・生徒	5
	2026年3月 14日～15日	引きこもりがちな青少年	18



朝霧高原サマーキャンプ～つながろう富士山～(ロングハイク)



長期キャンプ指導者養成講習会(川遊び)

(2) 受け入れ事業での支援

朝霧野外活動センターを利用した社会教育団体及び学校団体は 411 団体 44,021 人であった。利用団体に対し、実地踏査や事前の利用打ち合わせも含め、それぞれの団体の利用目的や団体の状況に合わせたきめ細かな支援を行った。学校を中心とした利用団体の指導者を対象に、組織キャンプの魅力を体験的に理解できる研修会(野外活動プログラム実習)を、夏休み期間に 1泊2日の日程で開催した。

2025 年度から、利用団体の指導者に、活動計画の立案の仕方や施設の使い方を説明したり、センターで出来る野外活動プログラムの体験の機会を提供したりすることを目的とした利用団体指導者研修会を開催する計画だったが、県立青少年教育施設を 1 所閉所するために県が組織した検討委員会や県内小中学校向けの施設見学等への対応が必要になった影響により日程の確保が困難になり、今年度は実施せずに、2027 年度以降に改めて開催できるよう準備を進めていくことにした。

利用者数の推移(施設全体・主催事業を含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和3年度	942	3,426	4,262	6,437	1,503	0	3,833	5,401	4,941	1,875	1,722	3,694	38,036
令和4年度	1,127	5,238	5,305	6,631	4,573	6,949	5,660	5,527	4,034	2,075	2,732	4,156	54,007
令和5年度	2,578	5,387	5,795	7,297	5,851	7,657	5,465	5,401	3,814	2,033	2,247	4,170	57,695
令和6年度	2,371	5,730	4,869	7,281	6,616	7,997	5,470	5,302	3,689	2,112	2,316	3,916	57,669
令和7年度	1,993	5,316	4,368	6,683	6,736	5,922	6,189	4,863	3,994	2,623	2,392	3,866	54,945

<本館棟>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和3年度	768	2,515	3,586	4,038	728	0	3,022	5,031	4,500	1,724	1,581	3,251	30,744
令和4年度	931	3,473	4,497	4,232	1,391	4,830	4,695	5,125	3,585	1,835	2,465	3,450	40,509
令和5年度	2,488	4,286	5,059	4,801	2,735	5,153	4,284	5,026	3,273	1,898	2,150	3,754	44,907
令和6年度	2,289	4,270	4,425	4,442	2,932	5,196	4,635	5,010	3,134	2,025	2,079	3,562	43,999
令和7年度	1,774	3,404	3,683	4,576	3,057	4,380	5,111	4,694	3,631	2,508	2,244	3,466	42,528

<キャンプ場>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和3年度	174	911	676	2,399	775	0	811	370	441	151	141	443	7,292
令和4年度	196	1,765	808	2,399	3,182	2,119	965	402	449	240	267	706	13,498
令和5年度	90	1,101	736	2,496	3,116	2,504	1,181	375	541	135	97	416	12,788
令和6年度	82	1,460	444	2,839	3,684	2,801	835	292	555	87	237	354	13,670
令和7年度	219	1,912	685	2,107	3,679	1,542	1,078	169	363	115	148	400	12,417

利用団体数の推移(施設全体・主催事業を含む)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和3年度	13	34	28	66	20	0	41	55	58	39	35	68	457
令和4年度	16	43	47	64	45	54	44	48	61	51	53	70	596
令和5年度	16	46	57	62	55	57	41	52	64	51	48	70	619
令和6年度	13	41	51	69	57	56	37	45	73	41	48	54	585
令和7年度	12	46	42	60	55	47	47	60	63	45	51	57	585

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和3年度	9	22	28	37	10	0	27	46	51	35	29	58	352
令和4年度	9	20	31	35	24	34	31	39	51	41	44	58	417
令和5年度	12	28	42	38	24	33	27	42	49	41	41	57	434
令和6年度	12	24	37	42	25	33	28	39	58	36	40	46	420
令和7年度	12	27	29	38	26	28	34	53	53	39	44	50	433

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和3年度	4	12	0	29	10	0	14	9	7	4	6	10	105
令和4年度	7	23	16	29	21	20	13	9	10	10	9	12	179
令和5年度	4	18	15	24	31	24	14	10	15	10	7	13	185
令和6年度	1	17	14	27	32	23	9	6	15	5	8	8	165
令和7年度	0	19	13	22	29	19	13	7	10	6	7	7	152

(3) プログラム開発等

① 雨天時に館内で実施できる活動的なプログラムのバリエーションを増やしてほしいという要望がかねてからあり、館内オリエンテーリングのコースを増やすなど対応してきた。今年度は、雨天時の活動バリエーションをさらに充実させるため、主催事業の機会を利用して、謎解きプログラムを5コース作成し、利用団体に提供できるように整えた。星座をテーマとして、季節に応じて実施できるものと、季節を問わずに実施できるものとを揃え、それぞれはプラネタリウムの上映と関連させて実施することもできるようにして、センターが持つ施設を十分に活用しつつ、子供たちが時間をかけ、仲間と協力しながら楽しんで取り組むことができるような活動になるよう心がけて作成した。

② 日程の短縮に応じて、短時間でもグループで楽しむことができるニュースポーツを実施する団体が増加しているので、人気がある種目について、大規模団体や、複数団体による同時実施等に対応できるよう、ディスクゴルフ、モルック、バグジー等の用具を増強した。



ステキな秋をあなたに(バグジー)



ステキな秋をあなたに(水彩アート)



朝霧マウンテンオリエンテーリング



スケートキャンプ(12月)



野外教育指導者養成講習会



朝霧高原ホッとキャンプ(段ボールオブ・ソッキング)

(4) 地域との協働

- ① 近隣の富士宮市立井之頭小中学校の入学式・卒業式に参列したほか、隣接する富士丘地区で開催する秋の祭典(牛頭観音供養祭)に出席した。
- ② 11 月に地域の住民、事業協力者、周辺施設の職員などを招き、恒例の地域懇談会を開催し、センターの運営状況を説明するとともに、センターの運営に関する意見や提言を募り、運営に活かした。
- ③ 静岡市にある常葉大学の教職大学院で開講する 4 泊 5 日の野外教育活動実習(冬期のキャンプ実習)の指導を受託し、センターを会場に、教員を目指す大学院生に対して組織キャンプのあり方の指導を行った。
- ④ 静岡県立の青少年教育施設 4 所で組織する県立青年の家等協議会において、1 泊 2 日の職員研修会を企画・開催し、各所の指導系職員が集まり、利用団体への指導法や提供している活動プログラムなど、各所が持っているノウハウを学び合い、職員としての互いの資質を向上させるための機会とした。

(5) 外部評価委員会

2025 年 5 月 15 日に、外部評価委員会の視察があり、2024 年度の施設の運営状況についての質疑応答が行われた。評価の結果は 2025 年 10 月 16 日付文書で通知され、評価の総括は「A」判定であった。

3. 地域の関係団体との連携

青少年教育、社会教育、NPO 法人、野外教育、行政機関などの各団体と連携をはかるため、担当委員として協力を行った。

団 体 名	役 職	担 当
青少年教育団体懇談会	委 員	依田 智義
中央青少年団体連絡協議会世話人会	委 員	依田 智義
体験の風をおこそう運動推進委員会	代表委員	平田 裕一
	委 員	依田 智義
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	評議員	依田 智義
公益財団法人ハーモニセンター	監 事	依田 智義

4. 青少年教育団体との連携

青少年教育団体との連携は、2026 年 2 月に中央青少年団体連絡協議会、社会教育団体協議会、文部科学省との共催による、新年互礼会を日本青年館において開催した。また、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟、日本 YMCA 同盟、東京 YWCA による青少年教育団体との共同事業は、6 月、10 月、2 月に定例懇談会を実施し、団体間の連携や団体運営の課題について協議と情報共有を行った。

5. 国際事業の取り組み（国内外の情報収集と国際的な人材育成）

国際キャンプ連盟(ICF)からのニューズレターやオンライン研修会の情報提供を Web サイトに掲載し、会員や一般市民に向けて継続した。また、海外研修中の会員の協力により、海外のキャンプ事情の紹介を行った。

（１）国外情報の提供及び国内情報の海外への発信

今年度も ICF ニュースレターを Web サイトに掲載し、海外のキャンプ情報を随時、紹介した。併せて、ICF が開催する無料の教育ワークショップについて案内を行った。

このほか、会報誌『CAMPING』では、アウトドア大国であるニュージーランドのキャンプ事情について 2 号にわたり特集するとともに、世界の専門家が執筆に参加したアウトドアセラピーに関する書籍翻訳本の紹介を行った。

- ・「ICF ニュースレター」の紹介（4 月、7 月、12 月、1 月、3 月）
- ・ワークショップの紹介（10 月、11 月×2 回、1 月×2 回、2 月、3 月×3 回）

（２）国際的な人材育成

Web サイトを通じて、日本国内のキャンプ関連情報や『CAMPING』のバックナンバー、キャンプに関する研究成果等を掲載し、広く世界に向けた情報発信に努めた。2026 年 11 月に中国で開催する国際キャンプ大会への会員派遣を計画したが、事務局体制の諸事情により今回は見送ることになった。

6. 都道府県キャンプ協会の事業連携 ～「ビジョン 2025」5 年目（最終仕上げの年）～

「ビジョン 2025」の 5 年目を迎えた当年度は「最終仕上げの年」として位置付け、4 年目（実行の年）の事業状況について都道府県キャンプ協会を対象にアンケート調査を実施した。その結果、キャンプインストラクター養成講習会の開催数・養成数が減少したものの、キャンプディレクター 2 級養成講習会は工夫により開催数は維持されており、会員向け・防災関連・社会課題・SDGs への対応を意識した事業の拡大が見られた。スタッフ数の減少などの課題があるなか、重要な課題に集中し、ポイントを絞った運営を図ろうとする動きや要望が進んだ。

（１）ブロック別ビジョン推進事業（ブロック別キャンプミーティング）の支援（年 1 回）

「ビジョン 2025」の拡充のために、全国 6 つのブロックにおいて開催したビジョン推進事業の支援を行った。ビジョンの「アクションプラン」をテーマに、ブロック内の協会が協力して、地域支援イベント、各協会の事例発表や研修会の取り組みが積極的に展開された。特に、中国四国ブロックでは、岡山県津山市の久米ロッジを会場に「キャンプフェスタ」を開催し、多くの家族、児童養護施設の皆さんにキャンプの楽しさ届けることができた。

（２）ブロック会議（年 2 回）オンライン開催

6 月に都道府県キャンプ協会指導者研修会を開催し、ビジョン推進事業、倫理ガイドライン、講習会の情報などの協議を行った。3 月に新年度の事業方針・計画や収支予算などの報告、新年度のビジョン推進事業の計画を確認するために、都道府県キャンプ協会事務局担当者会を開催した。

ブロック	日程(ビジョン推進事業・ブロック会議)	幹事県・主管	延べ参加人数
全ブロック	6 月 15 日、3 月 19 日	日本協会	164
北海道・東北ブロック	11 月 15 日～14	宮城県	30
関東ブロック	11 月 15 日～16 日	栃木県	32
中部・北陸ブロック	12 月 6 日	愛知県	36

近畿ブロック	3月1日	大阪府	50
中国・四国ブロック	12月13～14日	岡山県	162
九州・沖縄ブロック	11月1日～2日、2月22日～23日	熊本県・福岡県	63

7. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施

キャンプを安全に楽しむために毎年7月の第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定め、夏休み期間に安全啓発キャンペーンを展開した。安全対策委員会が中心となり、特に近年増加している熱中症について傾向と予防策、処置方法等に焦点を当て、重点的に安全啓発を行った。

- ・キャンペーン期間：2025年7月1日(火)～8月31日(日)
- ・キャンプ安全の日：2025年7月20日(日) ※7月第3日曜日
- ・キャンペーンチラシのWeb配布、「安全なキャンプのために」などの小冊子の提供
- ・広報活動(Webサイト、Facebook、報道機関)の全国展開
- ・都道府県キャンプ協会での安全啓発活動

8. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

一般財団法人日本宝くじ協会の助成を受けて、都道府県キャンプ協会に多目的イベント用テントや宿泊型テントに加え、近年の暑さに対応するためタープを配備した。これらのテントは、各協会が主催するキャンプや指導者講習会、各種イベントで幅広く活用されており、青少年の協調性や社会性を育む自然体験活動の場づくりに貢献している。テントは屋外で使用されるため損傷しやすく、安全で快適なキャンプ活動の継続には修繕・廃棄等を含めた定期的な更新が不可欠である。今回の配備により、より多くの参加者が安心してキャンプを体験できる環境が整備され、今後も各地で有効に活用される予定である。

配布件数：45 都道府県キャンプ協会(5種、計90張)



都道府県キャンプ協会に配備したテント一例

9. グッドキャンパーキャンペーンの実施

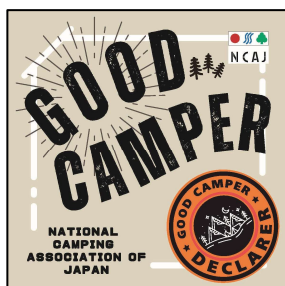
キャンプ人口の増加に伴い、各地でマナー違反や迷惑行為が課題となるなか、安全・環境・マナーに配慮したキャンプの実践を呼びかける「グッドキャンパーキャンペーン」は3年目を迎えた。本事業では、特設Webページを通じて「グッドキャンパーの心得8か条」への賛同を募り、賛同者を「グッドキャンパー宣言者」として集計。

Web 上での宣言証発行に加え、協賛企業・団体による特典提供を実施した。また、都道府県キャンプ協会や朝霧野外活動センターの協力を得て、対面イベントや講習会を通じた現場での周知活動を強化し、宣言者へのステッカー配布を継続した。さらに SNS シェアキャンペーン「山の日 2025」など多様なチャネルを活用し、キャンプ愛好者への普及に努めた。結果として、年度内の宣言者数は目標の 15,000 人に対し 12,500 人(累計)に留まったものの、ステッカー配布等による現場での認知度は着実に向上した。目標未達の要因については、Web 上での新規層の獲得に課題があったと分析しており、次年度はデジタル広告の活用や SNS での発信内容を精査し、さらなる普及拡大を目指す。

「グッドキャンパーキャンペーン」特設 Web ページ

<https://camping.or.jp/ncaj-goodcamper>

- 6 月…… 希望があった都道府県キャンプ協会に広報用のステッカーを配布
- 7 月…… 会報誌『CAMPING』にてステッカーの配布開始を報告
- 8 月…… 「#グッドキャンパー」SNS シェアキャンペーン＜山の日 2025＞実施
- 11 月…… 第 29 回日本キャンプミーティングにて宣言者を募るブースを出展
- 11 月…… 朝霧カーニバルにて、グッドキャンパーキャンペーンやキャンプの安全を伝えるブースを出展



ステッカー表・裏／静岡県立朝霧野外活動センターのプラネタリウム一般公開での紹介の様子

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2）

よりよいキャンプを実現する指導者養成事業は、キャンプの楽しさを伝え、その有用性を引き出し、キャンプに参加する人々の心身の成長を導く指導者を養成する大切な事業である。少子化や教育現場の変化により、指導者養成事業を取り巻く環境は、年々厳しさを増しているが、より一層の創意工夫をはかりながら、組織キャンプの担い手である未来のリーダーを育てる取り組みを展開した。

1. 公認指導者養成

(1) キャンプインストラクター養成講習会

キャンプインストラクターの養成数は、都道府県キャンプ協会、課程認定校、一般課程認定団体のいずれの養成課程においても、前年度に比べて減少に転じ、初めて 1,000 名を下回る結果となった。これからの養成事業に課題を残した。

講習会（課程認定団体 A・B・C 団体による実施）

課程認定団体	養成人数
(A団体) 都道府県キャンプ協会	337
(B団体) 課程認定校(大学・短期大学・専門学校など)	495
(C団体) 一般課程認定団体(社会教育団体、野外教育団体など)	125
合 計	957

※養成数は、2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの認定者数

※養成目標数 2,000 人、達成率 47.8%

※2024 年度養成数 1,384 人、対前年比 242 人減少

(2) キャンプディレクター2級養成講習会

キャンプディレクター2級の養成は、より多くのエリアで講習会が開催できるように、都道府県キャンプ協会主催の講習会を支援することを目的に、キャンプ指導者養成活性化事業を実施した。しかし、それでも受講生が集まらず、講習会が中止になるケースがあった。課程認定校と一般課程認定団体においても、中止や受講生の減少が見受けられ、その結果、全体の養成人数は、前年比 17 名の減少の 65 名となった。

A 団体による実施

主催協会	日 程	会 場	養成人数
福井県	2025/4/27(日)・5/9(金)～11(日)	国立若狭湾青少年自然の家	4
栃木県	2025/5/16(金)～18(日)	ボーイスカウト日本連盟 那須野営場	5
東京都	オンライン講習: 2025/8/26(火)・27(水)・28(木)	オンライン	中止
	対面講習 9/11(木)～12(金)	川崎市野外活動施設	
京都府・滋賀県・奈良県 合同	2025/10/11(土)～10/13(月祝)	青少年野外活動総合センター 友愛の丘	6

神奈川県	2025/10/25(土)～26(日)	神奈川県立足柄ふれあいの村	中止
石川県	2025/11/1(土)～3(月祝)	金沢市キゴ山ふれあい研修センター	4
兵庫県	2025/12/13(土)・14(日)・21(日)	神戸市青少年会館	5
大阪府	2026/2/6(金)～8(日)	吉野宮滝野外学校	中止
沖縄県	2026/2/10(火)～12(木)	NEOS アウトドアパーク南城	中止
宮城県	2026/2/21(土)～23(月祝)	宮城県松島自然の家	9
福岡県	2026/3/6(金)～8(日)	北九州市立玄海青年の家	6
長野県	2026/3/20(金)～22(日)	小滝・ふるさとの家「となり」	4
合計			43

※2024 年度 8 会場:39 人、対前年比 4 人増

B・C団体による実施

区分	団体名	養成人数
B団体	国際自然環境アウトドア専門学校(通年)	7
	日本女子体育大学(通年)	1
C団体	大阪 YMCA 【兵庫会場】2025/11/1(土)～3(月祝)	中止
	福岡市キャンプ協会 2025/11/22(土)～24(月祝)	中止
	合同会社スペアタイム【東京会場】2025/5/13(火)・14(水)・15(木)、5/24(土)～25(日)	3
	合同会社スペアタイム【東京会場】2025/7/1(火)・2(水)・3(木)、7/12(土)～13(日)	3
	合同会社スペアタイム【東京会場】2025/9/16(火)・17(水)・18(木)、9/27(土)～28(日)	中止
	合同会社スペアタイム【千葉会場】2026 年 3 月	2
	NPO 法人野外遊び喜び総合研究所	6
	合 計	22

※2024 年度 6 団体:43 人、対前年比 21 人減

※養成数は、2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日に実施された講習における登録数

※養成目標数(A・B・C団体) 130 人、達成率 50%

※2024 年度全体養成数(A・B・C団体) 82 人、対前年比 17 人減

(3) キャンプディレクター1級養成講習会(日本キャンプ協会主催)

キャンプディレクター1級養成講習会は、昨年度に続き、対面形式とオンライン形式の2コースで開催した。前年度より参加者数を増やすために、開催時期を11月と12月から12月と1月に変更し実施した。

日 程	受講人数	会 場
12 月 12 日(金)～14 日(日)	7	オンデマンド講習+オンライン講習
1 月 10 日(土)～12 日(月祝)	24	対面講習(東京・オリンピックセンター)

※養成目標数 55 人、達成率 56.3%

※2024 年度 2 会場:25 人、対前年比 6 人増

(4) キャンプディレクター1級検定会(日本キャンプ協会主催)

昨年度に続き、対面形式で関東と関西の2会場で29名が受検した。新たに28名のキャンプディレクター1級

指導者を認定することができた。

日 程	受検人数	会 場
2 月 14 日 (土)・15 日 (日)	3	対面検定 (大阪・ドーンセンター)
3 月 7 日 (土)・8 日 (日)	26	対面検定 (東京・オリンピックセンター)

※養成目標数 55 人、達成率 50.9%

※2024 年度 2 会場:26 人、対前年比 2 人増

2. キャンプ指導者・団体の審査・認定・更新と目標数

資格申請者の審査・認定

資格名 認定日	キャンプ インストラクター (CI)	キャンプ ディレクター2級 (D2)	キャンプ ディレクター1級 (D1)
合計人数	957	65	28
目標人数	2,000	130	55

※2024 年度 D1:26 人 D2:82 人 CI:1,384 人

指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新

	キャンプ インストラクター(CI)	キャンプ ディレクター2 級(D2)	キャンプ ディレクター1 級(D1)	合計人数
更新人数	3,721	1,208	950	5,879
目標人数	3,900	2,170		6,070

※指導者資格更新目標数 6,070 人、達成率 96.9%

※2024 年度 CI:3,916 人 D2:1,222 人 D1:921 人 合計 6,059 人、対前年比 191 人減

課程認定団体数

A団体	B団体	C団体	合計
47	99	20	166

※2024 年度 A 団体:47 B 団体:99 C 団体:28 合計 174 団体、対前年比 8 団体減少

新規課程認定団体の審査・認定

No	区分	入会日	課程認定団体名
1	C団体	4月1日	NPO 法人森のほうかごがっこう
2	C団体	4月10日	自由研究室 oranje
3	B団体	4月18日	千葉明德短期大学
4	B団体	4月30日	敬愛大学
5	B団体	4月30日	富山福祉短期大学
6	B団体	7月31日	中京大学スポーツ科学部
7	C団体	10月15日	自然学校キッツ森のようちえん
8	C団体	11月1日	公益財団法人社会教育協会

※新規課程認定団体目標数 10 団体、達成率 80 %

※2024 年度新規課程認定団体 5 団体、対前年比 3 団体増加

賛助会員及び団体会員

No	区分	入会日	団体名
1	団体会員	5月7日	伊勢路オートキャンプ場

※新規入会賛助・団体会員目標数 4 団体、達成率 25%

※2024 年度新規入会賛助・団体会員 合計 1 団体、対前年比 0 団体

3. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプ指導者養成用のテキストとして、『キャンプ指導者入門第5版』、『キャンプディレクター必携第3版』の発行を継続して行った。

販売部数 キャンプ指導者入門 2,020 冊 キャンプディレクター必携 115 冊

4. 課程認定団体研修会

課程認定団体研修会は、「ビジョン 2025」の「人材の育成」をテーマに、都道府県協会、課程認定校、一般課程認定団体を対象に開催した。今回から講習を指導する講師向けの研修内容に改め、具体的な事例発表を通じて、科目毎に創意工夫している情報交換を行い、今後の指導に役立てることができた。

日 程：2025 年 4 月 19 日（土）13：30～15：30

会 場：オンライン

参加者：106 名（指導者会員、委員、職員）

5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会・事務局担当者会

都道府県キャンプ協会指導者研修会は、6月に全国から関係者が集い、「今、キャンプ指導者に求められるもの ～『キャンプ指導者のための倫理ガイドライン』の普及にむけて」をテーマに、指導者として理解すべきハラスメントについて学びを深めた。また、都道府県キャンプ協会事務局担当者会を3月にオンライン開催し、2026 年度事業方針の重点施策、収支予算、60 周年記念事業、ビジョン推進事業などの説明と協議を行った。

<都道府県キャンプ協会指導者研修会>

日 程：2025 年 6 月 15 日（日）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容：今、キャンプ指導者に求められるもの ～「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」の普及にむけて～ （日本キャンプ協会副会長・安全対策委員長 中村 正雄）

「ビジョン 2025」 最終年度の強調点

ブロック会議

- ・ブロック別ビジョン推進事業について
- ・「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」をどう普及させるのか
- ・キャンプディレクター2 級の養成について
- ・その他（次期ブロック理事、幹事県、次回ブロック会議日程等）

インフォメーション

- ・グッドキャンパーキャンペーン 3 年目の展開
- ・各協会、ブロック、委員会からのお知らせ

・日本協会事務局からの連絡 他
参加者：81 人（指導者会員、役員、職員含）

<都道府県キャンプ協会事務局担当者会>

日 程：2026 年 3 月 19 日(金)

会 場：オンライン

内 容：2026 年度事業計画・予算について

事業計画重点施策、年間スケジュール、予算

設立 60 周年記念事業、こども性暴力防止法の対応

D1 養成講習会の開催、D2 養成講習会の開催支援

役員改選、人事の件等

協会運営のてびき・資料集について

ブロック会議

設立 60 周年記念事業

2025 年度ブロック別ビジョン推進事業

キャンプディレクター 2 級養成講習会

その他

事務連絡など

参加者：89 人（指導者会員、役員、職員）

6. 課程認定団体の増強への取り組み

課程認定団体の増強は、新たに8団体の入会があったが、具体的な広報活動を実行できず、目標数の達成には至らなかった。ただ、新規入会団体の多くは、新しくキャンプディレクター1級を取得した指導者会員により登録するケースが増えている。改めて学校や団体には、キャンプ指導者の養成の必要性や価値を精査して、「人材の育成」の有用性を伝えることと、新しいキャンプディレクター1級の指導者会員には、養成指導が可能になることを伝える広報活動を、丁寧に行うことが急務である。

7. 指導者養成制度の改定と活用

組織キャンプの指導者を養成する現行制度は、キャンプに対する社会的な価値観の変化に伴い、制度自体を見直す時期に入っている。2025 年度は、資格制度検討タスクにおいて集中的に検討を行い、11 月末に「新資格制度案について」という指針を提言することができた。今後は、指針に基づき、新たな資格制度の整備と確立が急がれる。

8. 教育現場との新たな協働

組織キャンプにとって、その実践の場である教育現場との連携は欠かすことはできない。しかし、働き方改革や教員の不足に伴い、学校で行うキャンプは縮小傾向にある。また、部活動の地域クラブに移行する動きも、思うような連携は進められなかった。子どもの体験格差が拡大し、社会問題として顕在化している中、教育現場との連携を如何に図るべきか、重要な命題となっている。

9. 指導者会員が活動する機会の提供

指導者会員が活動する機会の提供は、キャンプインフォメーションセンターに指導者派遣の要請があったクライアントに、近隣の都道府県協会に紹介を行い、協力することができた。日常的な活動の場の提供については、原点に戻り、都道府県協会の事業と連動する可能性を再リサーチしたい。

10. 安全に関する啓発活動

夏休み期間にキャンプを安全に楽しんでもらうために、「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンを展開し、指導者や保護者、キャンプ参加者への注意喚起を行った。当年度は安全対策委員会が中心となって「減災につながるキャンプの知識と技術」をテーマに情報を取りまとめ、Web サイトやフライヤー、会報誌『CAMPING』等を通じて保護者やキャンパー、指導者、都道府県キャンプ協会などの団体等に周知した。

キャンプを安全に行うための情報(ハンドブック、小冊子)の改定と見直しに着手した。

「キャンプ安全の日」チラシのトピックス

- ・発災直後
- ・避難生活
- ・ハードスキルとソフトスキル



「キャンプ安全の日」チラシ

11. 「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」の策定

世の中のハラスメントに対する意識が大きく変容する中、キャンプ指導者においても、その対応が必然的に求められる時代が到来している。こうした社会情勢を受けて、安全対策委員会が中心となり、「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」を策定し、指導者研修会やビジョン推進事業においてテーマとして取り上げ、学びを深めることができた。2026 年の 12 月には、『子ども性暴力防止法』が施行される。子どもたちのキャンプを行う全ての協会や団体は、ハラスメントに対する必要最低限の具体策を講じて、準備を急ぐ必要がある。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業は、国内外で行われているキャンプの実践や研究についての調査、情報の収集、整理を行い、実践者、研究者に関係資料の提供を行った。特に、各地で行われたキャンプの事例紹介を定期大会や定期刊行物などで行い、キャンプ事業の継続と支援に努めた。

1. 第29回日本キャンプミーティングの開催

第28回に引き続き1日のみの日程で開催をした。テーマは「もっと、つながる」とし、第28回より多くの自然体験活動・野外教育団体や活躍する指導者の協力を得て、学生を中心に、様々な分野・職種の方々が参加し、キャンプならびに自然体験の意義を確認するとともに、交流を深めた。なお、この事業は子どもゆめ基金の助成金を活用して実施した。

日 程：2025年11月8日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：延べ152人（実行委員・発表者含む）

【ワークショップ】8題

アイスブレイク100本ノック！ 講師：徳田 真彦
JOLAファイナリストに聞く「わたしの原点」 登壇者：松木 正、谷 慶子
これからの社会で求められる青少年教育施設とは 登壇者：齋藤 雄、坂下 直生、笠倉 秀貴
子どもどうまく関わるにはどうしたらいい？ 登壇者：奥 京子、原田 史子、秋山 和沙
プロジェクトアドベンチャー(PA)体験 講師：下國 健人
自分のキャンプを発表しよう！～実践紹介ってどうやるの？～ 講師：中丸 信吾
キャンプ×AI＝？～何ができるのか考えてみよう～ 登壇者：内藤 勲
絶対に間違えてはいけない毒ヘビと無毒ヘビの見分け方 講師：西海 太介
多角的に考えるキャンプの安全 講師：中村 正雄、吉田 理史、鈴木 千琴
身近な自然で遊び、学んでみよう 講師：佐藤 敬一、板倉 浩幸

(敬称略)

【研究発表】2題

自然の再演 ―ワイルドの自然観とアートプロジェクトの接点― 甲斐 知彦、佐々木 樹、西垣 幸造
小学生の自然体験と生活体験の関係性について 佐々木 陽奈、小林 桃佳、中丸 信吾

(敬称略)

【実践(取り組み)発表】6題

学校・地域・大学が連携して育む身近な自然体験の場ー「多摩の自然学校」の実践報告ー 加藤 晃也(国士舘大学大学院) 山崎 源太(多摩市教育委員会/国士舘大学)、永吉 英記(国士舘大学)
大学生・児童それぞれを対象としたキャンプの実践紹介と補助学生の役割 澤近 遥希(至学館大学大学院) 加藤 風紗(至学館大学)、深井 尋士(至学館大学)、福富 優(至学館大学)
令和7年度文部科学省委託事業体験活動を通じた青少年自立支援プロジェクト「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」事例発表 豊田 博(公益財団法人 滋賀県希望が丘文化公園 管理監) 北田 雄大、島村 柚衣
参加者数が少なくても質の高い事業を継続「自然生活体験キャンプ」はメイン行事として復活させる 酒井 英之(栃木県キャンプ協会)
日本体育大学のキャンプ実習におけるピアカウンセラーの役割 ～実践を通して捉えた実習生の成長と運営の改善点～ 矢野 まいこ、楠元 翔大、暮田 陸斗、村山 航葉、高荷 英久
日本体育大学におけるキャンプ実習が開講されている意義 -学生スタッフの視点から- 佐藤 健太、前嶋 香乃、増田 紗来良、笹本 茂雅、村山 航葉、高荷 英久

(敬称略)



チラシ



抄録集

(後援団体)

(一社) 日本アウトドアネットワーク、(一社) 日本インタープリテーション協会、(株) プロジェクトアドベンチャー・ジャパン、(公社) ガールスカウト日本連盟、(公財) 東京YWCA、(公財) 日本YMCA同盟、(公財) 日本アウトワード・バウンド協会、(公財) ボーイスカウト日本連盟、日本野外教育学会、JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会、NPO 法人エコツーリズムセンター、NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会、NPO 法人海に学ぶ体験活動協議会、NPO 法人自然体験活動推進協議会、NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟 (法人格含む 50 音順)

2. 定期刊行物『キャンプの実践と研究』（PDF 版）

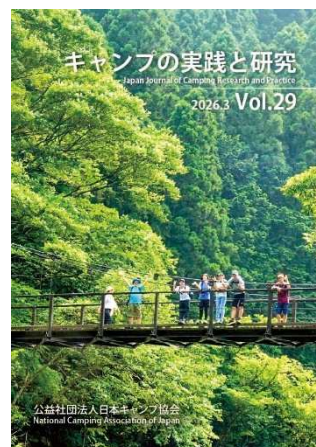
1997 年の創刊以来、キャンプおよび野外教育に関する研究と実践の共有を目的として発行してきた『キャンプ研究』は、2024 年度に『キャンプの実践と研究』へと誌名を変更し、規程および投稿フォーマットを刷新した。原稿種別にはこれまでの研究論文、実践報告に加え、新たに研究ノート、実践紹介を設け、多様な視点からの発信を強化している。

当年度に発行した第 29 巻では、研究論文 1 編、研究ノート 1 編、実践報告 3 編、実践紹介 2 編の計 7 編を掲載。これらの内容は、会員に限らず一般にも Web サイト上で公開しており、キャンプや野外教育に関心を持つ幅広い層に向けて、最新の知見と実践例を提供した。

発 行 日：2026 年 3 月 31 日

媒 体：PDF 版

Web サイト公開



『キャンプの実践と研究』第 29 巻

研究論文

戦前・戦中期における興望館セツルメントのキャンプ
(中島 豊)

(敬称略)

研究ノート

指導者からみた野外教育におけるデジタル技術導入の可能性
ー国立諫早青少年自然の家におけるアプリ活用に関する事例調査ー
(甲斐 知彦、蓮見 直子、日高 由樹、吉田 流風)

(敬称略)

実践報告

「個人探究」を基盤とした長期野外活動の実践
ー 2025 年 8 月度カバキャンプにおける「個の自立」の検証ー
(富永 岳、角野 善秀)

栃木県キャンプ協会主催事業「自然生活体験キャンプ」の復活を目指して
ーコロナ禍後 2024 年～ 2025 年実践報告ー
(中島 祥文、新村 尚、野村 徹、酒井 英之)

学生たちがつくる野外での子育てコミュニティ
ーおひさまパークから見る野外子育てコミュニティの実態ー
(菊池 寛人、小川 優心、鎌田 啓司、松園 智輝、伊藤 優太、近藤 壮輔、塚田 紗菜、石川 大晃)

(敬称略)

実践紹介

区内キャンプ場で初めてのファミリーキャンプにチャレンジ！
品川キャンピングベース ～品川区キャンプ場開放事業@大井ふ頭～
(大田 敦士)

(敬称略)

3. キャンプカンファレンスの開催

キャンプディレクター1級と2級指導者の新たな学びと研鑽の場として、キャンプ×〇〇をテーマにしたキャンプカンファレンスを新たに年3回オンラインで実施した。

<第4回>

日 程：2025年6月25日(水) 19:00～21:00

テーマ：子どもの権利を守るキャンプづくり ～キャンプ活動におけるハラスメント事案と解決策～

登壇者：NPO 法人国際自然大学校 佐藤繁一

参加者：47人

<第5回>

日 程：2025年10月8日(水) 19:00～21:00

テーマ：キャンプディレクタークロストーク ～〇〇の語り場～

登壇者：下地 正敏(キャンプディレクター1級 沖縄県キャンプ協会会長)

松本 惇平(キャンプディレクター1級 モーネ代表)

竹園 明日香(キャンプディレクター1級 柏市キャンプ協会代表)

増井 翔太(キャンプディレクター1級 古民家体験施設 結管理人)

参加者：42人

<第6回>

日 程：2026年1月21日(水) 19:00～21:00

テーマ：こどもがまんなかの社会づくりを若者自身の力で！ ～若者が感じるアウトドアイベント企画運営の魅力とは～

登壇者：武蔵越生高等学校アウトドア部顧問と部員の生徒4名による発表

①「2025年度のイベント出展を通じて学んだこと」(1年:住吉七海/坂戸市立坂戸中)

②「今後アウトドア部で取り組みたいこと」(1年:小林堇/川越市立大東中)

③「SNSを通じて見えるアウトドアの魅力」(2年:中村優真/ふじみ野市立福岡中)

④「3年間の活動の中で学んだこと」(3年:織田陽大/東松山市立南中)

⑤「高校生を対象とした自然体験活動の教育的価値について —武蔵越生高等学校アウトドア部における教育実践報告—」(高橋皓正/顧問教員)

参加者：24人

(敬称略)

法人事務

当年度は、職員体制の変更に伴い、事務局機能の継続性を確保するため円滑な業務引き継ぎを実施した。管理体制の整備については、近年の法改正に対応し、正職員および有期雇用労働者の就業規則、育児・介護休業等に関する規則、給与規程等の改定を適切に行った。また、役員の安定的な確保と組織運営の充実を図るため、理事の定年を 67 歳へ引き上げるとともに、役員候補者選考規程の改定を実施した。都道府県キャンプ協会との連携においては、月刊「Monthly Report」の発行や事務局担当者会の開催を通じ、緊密な情報共有と意思疎通を図った。加えて、2025 年 4 月施行の公益法人制度改革に伴い、新会計基準への移行を見据えた各種セミナーへの参加を継続し、制度変更に対する理解の深化と移行準備に努めた。

1. 諸会議の開催と参加

会議名	回数	日 程
定時社員総会	1	6月 14 日
理事会	3	5月 23 日・7月 30 日(臨時)・3月 13 日
監査	13	5月 21 日(監事)・毎月1回(税理士法人 T's 会計)
三役会	12	4月9日・4月 19 日・4月 28 日・6月 24 日・7月 23 日・8月 15 日・8月 26 日・9月 25 日・10月 22 日・11月 17 日・1月9日・2月9日・3月3日・3月 25 日
執行理事会	7	5月 16 日・6月 30 日・9月 25 日・10月 29 日・11月 27 日・1月 14 日・2月 25 日
全体運営会議	3	5月 16 日・9月 25 日・2月 25 日

運営委員会等

会議名	回数	日 程
CAMPING 編集委員会	4	7月3日・10月7日・12月9日・3月 24 日
ビジョン推進委員会	2	6月4日・2月 20 日
朝霧野外活動センター連携協議会	1	12月 10 日
指導者養成委員会	3	6月2日・12月 1 日・1月 27 日
安全対策委員会	3	4月 22 日・6月 23 日・3月 10 日
資格制度検討タスク	7	4月 21 日・5月 17 日・7月 14 日・9月 22 日～23 日 10月2日・10月 17 日・11月 20 日
カリキュラム検討委員会	1	3月 12 日
研修・研究委員会	1	2月 5 日
日本キャンプミーティング部会	6	4月 21 日・9月 17 日・10月 23 日・11月 19 日・2月 5 日
キャンプカンファレンス部会	2	6月9日・11月 21 日・2月 27 日
総務委員会	4	5月9日・6月 23 日・11月 26 日・1月 19 日
ブロック連携委員会	1	6月 6 日
正会員候補者推薦委員会	1	5月 15 日
役員候補者選考委員会	1	3月 24 日
事務局会議	7	7月 17 日・9月 18 日・11月 20 日・12月 18 日・1月 21 日・2月19日・3月31日

その他の会議、研修等

会議名	回数	日 程
青少年教育5団体連絡協議会	3	6月 24 日・10月 21 日・2月 17 日

中央青少年団体連絡協議会世話人会	7	7月22日・9月2日・10月27日・11月25日・1月29日・2月9日・16日(新年互礼会)
文部科学省と中青連世話人会との意見交換会	1	9月17日
体験の風をおこそう運動推進委員会	1	6月25日
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	2	5月30日・1月21日
公益財団法人ハーモニセンター	6	5月19日、27日・6月17日・7月20日・9月18日・3月16日

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程
県立青年の家等所長会	4	5月13日・9月17日・12月17日・3月12日
静岡県青少年教育施設協議会所長会	4	4月8日・7月10日・10月7日・2月18日
県立青年の家等主席会	4	5月16日・7月29日・11月18日・2月14日
安全対策委員会	2	6月18日・10月10日
外部評価委員会	1	5月15日
全国青少年教育施設所長会議	—	欠席
東海北陸地区青少年教育施設協議会職員研修大会	1	12月11日～12日(国立能登青少年交流の家)
静青協職員研修会	1	1月28日～29日(浜松市かわな野外活動センター)
県立青年の家等協議会職員研修	1	3月11日～12日(静岡県立観音山少年自然の家)
県立青少年教育施設指導者養成関連事業担当者会	1	2月20日(静岡県庁)
常葉大学教職大学院連携協力協議会	2	4月28日・2月25日(常葉大学)
常葉大学教育学部社会教育実習連絡協議会	1	2月2日(常葉大学)
地域懇談会	1	11月7日

2. 都道府県キャンプ協会との連携

都道府県キャンプ協会と日本キャンプ協会が共に自立をすることめざし、ビジョン2025のアクションプランの推進のために、ブロック内の連携の支援と事業活動への協力を行った。

- ・会報同封サービスの提供(公1)
- ・ブロック別ビジョン推進事業の開催と支援(ブロック会議含む)(公1)
- ・「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーン(キャンプの普及と振興)(公1)
- ・キャンプ用品・用具の配備(公1)
- ・キャンプ指導者養成講習会の支援と協働(特定費用準備金を活用し、キャンプディレクター2級養成講習会の活性化事業を実施)(公2)
- ・都道府県キャンプ協会指導者研修会・事務局担当者会の開催
- ・Monthly Reportの発行(10回)
- ・グッドキャンパーキャンペーン

3. 日常法人業務

職員の退職に伴い、会員管理および経理・総務業務を担当する後任職員を 2 名採用し、業務の停滞を防ぐため円滑な引き継ぎを実施した。また、予算管理の徹底に努め、助成金等を有効に活用することで支出の抑制を図った。規程の整備については、法令改正に対応し、就業規則および給与規程などの改定を行った。

<法人事務の主な業務>

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／助成金事務／人事管理／諸規定の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

4. 各種団体等への主な後援

団体名	事業名	種別
日本 YMCA 同盟	能登半島地震 YMCA リフレッシュキャンプ	後援
奈良県吉野町	ネットを考える合宿『オフラインキャンプ in 吉野 2025』	後援
アウトドアチャレンジ協議会	親子deアウトドアチャレンジ(1)中国・四国/(2)東京 2/(3)新潟/(4)愛媛/(5)徳島	後援
日本自然保育学会	日本自然保育学会第 10 回大会(横浜)	後援
日本 YMCA 同盟	能登半島災害支援リフレッシュスキーキャンプ	後援
大阪府キャンプ協会	関西野外活動ミーティング	後援

CAMPING AWARD 2025 受賞者（12 人、4 団体）

千葉 伸子 様

岩手県キャンプ協会 副会長

千葉氏は、当協会設立(1993年)当初から研修に参加し、キャンプインストラクター(CI)取得入会。その後キャンプディレクター2級、1級を取得。CI養成講習会講師を務めています。

2003(平成15)年からは当協会理事としても活躍。2011(平成23)年3月11日に発災した東日本大震災津波によって甚大な被害を受けた沿岸部の子どもたちの心のケアを目的に立ち上げたアウトドアチャレンジ岩手県実行委員会でも中核スタッフとしてグリーフケアキャンプ指導に携わられました。

また、氏は県立の社会教育施設勤務(13年間)経験を活かすとともに、指導者資格を有するレクリエーションやネイチャーゲーム等の指導法も駆使する魅力あふれる指導で子どもたちや親・受講者等の心をつかんで離しません。その指導力には定評があり、アワード受賞者にふさわしいものといえるでしょう。

(推薦団体:岩手県キャンプ協会)

阿部 正一 様

一般社団法人 宮城県キャンプ協会 正会員

阿部氏は2001(平成13)年10月に宮城県キャンプ協会主催のキャンプインストラクター養成講習会を受講し、協会事業運営に携わっていただき、現在は正会員として協会運営を支えてくださっています。キャンプインストラクター養成講習会ではロープワークを担当していただいたほか、運営のサポート役として裏方を担当していただきました。ご本人の性格上、物静かで丁寧にお話することから「ゆっくり説明いただいたので分かりやすかった」と受講生から感想をいただいたこともありました。

毎年恒例の協会事業のファミリーキャンプなどでは裏方に徹し、マネジメントスタッフとして事業運営を支え、協会の若手スタッフの育成に携わっていただきました。これまでの活動に敬意を表すとともに、今後とも元気に協会運営に関わっていただけることを期待し、CAMPING AWARD 2025に推薦します。

(推薦団体:一般社団法人 宮城県キャンプ協会)

佐藤 由佳 様

福島県キャンプ協会 事務局長

学生の頃からアウトドアスポーツに親しみ、特にスキューターの指導者として青少年の技術向上に力を発揮してきました。キャンプ協会に入会以来、当協会の事業において中心的スタッフとして活躍するとともに、積極的な考えをもって協会の発展に尽力されています。また、県内の他団体との交流にも広く関わり高評価を得ており、忙しく動き回っておられます。

2012(平成24)年から事務局次長、2014(平成26)年から事務局長として当協会の要となって動き、スムーズな組織運営にその指導力を発揮し、なくてはならない存在となっております。将来的に益々の活躍が期待されることも踏まえ、アワードに推薦をいたします。

(推薦団体:福島県キャンプ協会)

郡司 順 様

一般社団法人 茨城県キャンプ協会 理事

茨城県キャンプ協会理事として2017(平成29)年より協会の発展に寄与された郡司氏は、キャンプアクティビティとしてオリエンテーリングを担当、年間数多くのプログラムを展開されています。1979(昭和54)年にオリエンテーリング協会3級公認指導員を取得、1981(昭和56)年に水戸市オリエンテーリング協会事務局長、1988(昭和63)年に茨城県オリエンテーリング協会第1支部支部長兼事務局長に就任。1997(平成9)年には上級資格である2級公認資格を取得、約50年にわたって県内のオリエンテーリングの活動普及に尽力されています。

本協会ではオリエンテーリングが主となるアクティビティであり、郡司氏の支援により年間数多くのキッズキャンプやファミリーキャンプにおいて展開しています。協会として、さらにその見識をご教示いただきたいと強く願っております。

(推薦団体:一般社団法人 茨城県キャンプ協会)

大塚 一弘 様

栃木県キャンプ協会 理事

栃木県キャンプ協会で実施してきた各種事業のスタッフとして活躍するとともに、2012(平成24)年度からは理事として協会運営の中核となり、建設的な考えを持って協会の発展に尽力されています。

特に、看護師としての病院勤務での最新の情報や経験を踏まえ、健康安全管理、衛生管理、疾病予防等の中心となり、会員の指導的役割も担いながら、安心安全な事業実施に貢献されてきました。また、本協会の中心的事業である「自然生活体験キャンプ」においては、第1回からスタッフとして参加し、ヘッドカウンセラー、カウンセラーとして指導の最前線で活動するほか、救護担当など裏方としても事業を支え、キャンプを成功に導いてられました。

(推薦団体:栃木県キャンプ協会)

安倉 義勝 様

NPO法人 千葉県キャンプ協会 副局長

安倉氏は、親子を対象とした「はじめてのテント泊」や地域の防災キャンプを企画・実施し、幅広い層へのキャンプ普及に尽力されてこられました。さらに、他協会・団体との連携を積極的に推進し、地域社会に根ざした活動を展開されています。加えて、キャンプインストラクター養成講習会の講師を務め、後進育成にも大きく貢献されています。

千葉県キャンプ協会の事務局としても運営基盤を支え、組織発展に寄与しており、長年にわたる情熱と努力は、キャンプ文化の普及と質の向上にも多大な影響を与えており、CAMPING AWARDにふさわしいものと強く推薦いたします。

(推薦団体:NPO法人 千葉県キャンプ協会)

佐藤 初雄 様

NPO法人 国際自然大学校 理事長

1983(昭和58)年に国際自然大学校を設立し、キャンプや冒険教育活動を軸に民間事業者として自然体験活動の普及と発展に尽力されています。さらに、日本アウトドアネットワークや自然体験活動推進協議会の創設、発展に多大な貢献を果たされました。

2023(令和5)年度まで日本キャンプ協会の理事や監事を務め、全国規模で自然体験活動の推進を支援するとともに、地域団体である東京都キャンプ協会においても設立期から活動を支え続けました。国内における野外活動指導およびリスクマネジメントの第一人者として、安全性と質の向上に寄与した功績は非常に大きく、多方面での活躍が高く評価されています。

(推薦団体:NPO法人 東京都キャンプ協会)

白山瀬波の会 様

白山瀬波の会は、白山麓の1つ瀬波地区存続の危機感を共有する仲間と交流人口を増やす事で、継承できる地域作りを目指しておられる団体です。休止していた瀬波川キャンプ場や周辺の整備をはじめ、行政や企業との関わりを実施、2017(平成29)年にキャンプインストラクターを取得し再開しました。弊協会主催「いしかわキャンプフェスティバル」では、毎年200名を超える参加者が瀬波の自然を満喫され、瀬波川での鮎取りや川遊びは人気の活動です。

公益社団法人 国土緑化推進機構主催、令和4年度「ふれあいの森林づくり」国土緑化推進機構理事長賞、石川県主催、令和6年度「石川地域づくり表彰」団体部門大賞を受賞されました。

キャンプ場構想を話される声、活動準備を何カ月も前から惜しみなく行う姿勢は指導者としての大切な根幹を教えてください。今後も協会運営のさまざまな分野において見識をご教示していただきたい存在です。

(推薦団体:石川県キャンプ協会)

羽場 睦美 様 長野県キャンプ協会 顧問・元副会長

羽場氏は1954(昭和29)年、長野県泰阜村に生まれました。名古屋大学大学院博士後期課程を単位取得満期退学し、教育修士の学位を取得。論文著作も多数あり、代表作に「参画・体験・発見学習の心理と応用」(2004, 文化庁委嘱事業)があります。

1985(昭和60)年に日本初の“野外教育”を冠した公益法人「財団法人野外教育センター」(現「人-自然-総合研究財団」)を設立。個性や意欲を磨く組織教育キャンプの研究開発・普及・指導者養成に尽力し、参加児童数は数万人、養成した指導者は延べ1万にのぼると推計されます。1年間キャンプを創出し、自治体等の要請に応じて「通年合宿所」を開設。現在は野外教育を活用したエコミュージアム運動や、地域大学づくり運動に取り組んでおられます。

長野県キャンプ協会では創設から参画し、常任理事・副会長を歴任、県協会の維持と発展に貢献。本協会では将来計画委員に選任されました。以上のように長年にわたりキャンプの発展に尽くしてきた功績は大きく、もって本賞に氏を推薦します。

(推薦団体:長野県キャンプ協会)

公益財団法人 名古屋YMCA 様

公益財団法人 名古屋YMCAは1902(明治35)年に日本で6番目の都市YMCAとして創立され、名古屋市内を中心に2つの拠点と2つのキャンプ場を有し、生涯学習の視点から広い範囲にわたって各種のプログラムを展開し、この地の青少年教育、野外教育を牽引されています。愛知県キャンプ協会設立時から現在まで、愛知県キャンプ協会の役員を担うだけでなく、協会事務局を置かせていただき、現在は理事会を名古屋YMCAで開催しています。

キャンプ指導者研修事業では、名古屋YMCAの研修を、団体会員のメンバーやキャンプ協会会員が参加できる「キャンプアカデミー」に協力いただくなど、名古屋YMCAが持つ事業企画力、深い指導者育成力、幅広いネットワークを愛知県キャンプ協会の運営の中で貢献していただいています。

以上により、2025(令和7)年度のCAMPING AWARDに推薦させていただきます。

(推薦団体:愛知県キャンプ協会)

公益財団法人 滋賀県希望が丘文化公園 様

長年にわたり、日本キャンプ協会および滋賀県キャンプ協会の団体会員として、青少年の野外活動や自然体験活動の発展に寄与してこられました。なかでも、1978(昭和53)年から続く大学生のキャンプリーダーの養成に力を入れ、キャンプを通じた人づくりに貢献されています。

一方、2007(平成19)年に滋賀県キャンプ協会創立20周年記念事業の際に、「キャンプ万歳！世界の友と共に！」を共催事業として関わり以降、「キャンプ活動の力」等を2024(令和6)年度まで実施、キャンプインストラクター養成講習会も長きにわたり共催事業として、開催されてきました。

現在では、さまざまな団体と連携し、ニーズに応じたキャンプを創り、指導することでキャンプの価値を高め、普及振興にも努めておられます。

(推薦団体:滋賀県キャンプ協会)

小嶋 薫 様

京都府キャンプ協会 常務理事

京都障害児福祉協会(現、京都総合福祉協会)職員当時、肢体不自由児キャンプに参加。その後、公益財団法人 京都市ユースサービス協会に勤務され、小中学生対象のキャンプに関わるボランティア(CAVOS)、あそびの広場(プレイパーク)や、青少年の音楽イベントに関わるボランティア育成など、長きにわたって青年指導者育成に積極的に取り組んでこられました。

また、京都府キャンプ協会へは1997(平成9)年に入会後、約30年の長きにわたってキャンプの普及や指導者養成にもご尽力され、現在も理事のほか、指導者養成委員ならびに協会の広報面で実力を発揮され、協会運営にも欠かせない存在としてご活躍いただいています。

(推薦団体:京都府キャンプ協会)

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団 様

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団は、児童福祉施設で生活する子どもたちを対象とした2泊3日の「ハチ北林間ホーム」を大阪市、大阪児童福祉施設連盟と協賛で、1968(昭和43)年から長期にわたって実施しておられます。

また、1997(平成9)年から被虐待児童を、現在は子ども食堂の子どもたちを対象とした日帰りキャンプ「ゆうゆうキャンプ」を、一般財団法人 大阪府青少年活動財団と連携して実施するなど、キャンプを通じた児童福祉の活性化に長年にわたって取り組んでおられ、その功績はCAMPING AWARDの受賞にふさわしいと考えます。

(推薦団体:大阪府キャンプ協会)

廣見 美佐 様

高知県キャンプ協会 理事・監事

高知県キャンプ協会の事務局長として、長年にわたり協会運営の要として貢献されてきました。“キャンプには自然と人、人と人をつなげる大きな役割がある”をモットーに、“自然は不便さもあるけれど、恵を与えてくれる存在でもある”ということを、多くの人に伝え続けています。

学生ボランティアや指導者の養成にも尽力され、キャンプの楽しさはもちろん、教育的な価値や魅力についても伝えられ、高知県のキャンプの普及や発展の土台づくりにも寄与されています。また、その活躍は高知県内にとどまることなく、中四国ブロックのブロック理事も務められ、地域間の連携やキャンプ文化の発展にも尽力されました。

“人と人をつなげるピースになります”とおっしゃられていたように、これからも、その魅力あふれる人柄で、キャンプの輪・人と人との輪を広げてくださることでしょう。

(推薦団体:高知県キャンプ協会)

福田 安雄 様

福岡県キャンプ協会 元監事

福田氏は、福岡県キャンプ協会の会員として主催事業への参加を重ね、2001(平成13)年の北九州市キャンプ協会設立にあたっては、設立役員として組織作りに貢献されました。以降、北九州市キャンプ協会の運営に尽力されるとともに、インストラクター養成講習会北九州会場では、毎回、マネジメントを担当し、また、福岡県キャンプ大会にも運営スタッフとして関わるなど、長年に渡って、北九州市キャンプ協会の事業、および北九州地区で開催される福岡県キャンプ協会の事業で中心的な役割を果たしてこられました。

また、2016(平成28)年から2期4年間、福岡県キャンプ協会の監事を務めて県協会の健全運営に寄与され、その後も、協会の運営や活動について相談に乗っていただいています。

(推薦団体:福岡県キャンプ協会)

高見 彰 様

公益社団法人日本キャンプ協会 顧問・元理事

2000(平成12)年より安全管理委員会に参画され、その後、委員長として委員会をけん引。2006(平成18)年からは特別委員会「中期計画策定委員会」の委員として、現在の「ビジョン2025」へとつながる中期事業計画の策定および推進に務められるなど、協会の将来計画やビジョン構築において大きな役割を果たされました。2012(平成24)年度には理事に就任され、2020(令和2)年度には常務理事、そして2022(令和4)年度には副会長を歴任。長きにわたり、協会の委員会活動、および業務執行に携わられました。さらに2023(令和5)年度には、キャンプ愛好者の拡大と安全なキャンプの普及振興を目指して新設した「グッドキャンパーキャンペーン」の推進担当役員として制度の発案・企画を担い、スタートアップに際してリーダーシップを発揮されました。現在も同キャンペーンのタスクメンバーとして、さらなる普及・拡大に尽力いただいております。

(推薦団体:公益社団法人日本キャンプ協会)

受賞者の皆様(一部)



公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025 年度 役員

(所属・役職は 2026 年 3 月 31 日現在)

名誉会長	酒井 哲雄	頌栄保育学院 元理事長 ※2024 年 8 月 4 日逝去
顧問	富岡 幸生	(一財)日本健康開発財団 元専任講師 ※2024 年 10 月 18 日逝去
顧問	野間口英敏	東海大学 元教授
顧問	長谷川純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長 ※2025 年 11 月 12 日逝去
顧問	野澤 巖	埼玉大学 元教授
顧問	永吉 宏英	大阪体育大学 元学長 大阪府キャンプ協会 会長
顧問	石田 易司	桃山学院大学 元副学長 大阪府キャンプ協会 副会長
顧問	星野 敏男	明治大学 名誉教授
顧問	神崎 清一	(公財)日本YMCA同盟 元総主事 京都府キャンプ協会 会長
顧問	高見 彰	関西国際大学 教授 兵庫県キャンプ協会 会長

会 長(代表理事)

	平田 裕一	至学館大学 副学長
副 会 長	藤枝 隆	東京農業大学 入学センター 参与
副 会 長	中村 正雄	大東文化大学 教授 埼玉県キャンプ協会 副会長
専務理事	今井 正裕	(一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長
常務理事	野口 和行	慶應義塾大学 教授
常務理事	甲斐 知彦	関西学院大学 教授
理 事	鈴木 由美	女子美術大学 非常勤講師
理 事	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ、(一社)SATOYAMAそだち代表理事
理 事	下川原清貴	北海道キャンプ協会 常任理事
理 事	吉松誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長
理 事	青木康太郎	國學院大學 教授
理 事	秋山 和沙	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長
理 事	大久保秀人	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長
理 事	大久保智子	(公財)東京YWCA 青少年育成事業部 統括責任者
理 事	佐藤 誠	北海道・東北ブロック (一社)宮城県キャンプ協会 会長
理 事	佐藤 繁一	関東ブロック (特非)東京都キャンプ協会 理事・事務局長
理 事	田丸 千佳	中部・北陸ブロック 石川県キャンプ協会 事務局長
理 事	三木 秀人	近畿ブロック 兵庫県キャンプ協会 副会長
理 事	小椋 聖也	中国・四国ブロック 岡山県キャンプ協会 事務局長
理 事	村上 彰一	九州・沖縄ブロック 長崎県キャンプ協会 理事長

以上20名

監 事	小田原一記	(公財)日本レクリエーション協会 専務理事・事務局長
監 事	平野 吉直	信州大学 名誉教授
監 事	田口 努	(公財)日本YMCA同盟 総主事

以上3名

公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025 年度 運営委員

(所属・役職は 2026 年3月 31 日現在)

執行理事会

役 職	氏 名	役職・勤務先役職
会 長	平田 裕一	代表理事 / 至学館大学 副学長
副 会 長	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学入学センター 参与
副 会 長	中村 正雄	業務執行理事、公2担当理事 / 大東文化大学 教授
専務理事	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室室長
常務理事	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学 教授
常務理事	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
理 事	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社) SATOYAMAそだち 代表理事
理 事	青木 康太朗	國學院大學 教授
総務委員	神谷 稔	(公財)日本アウトワード・バウンド協会 理事
所 長	井出 暢一	静岡県立朝霧野外活動センター

全体運営会議(正副委員長)

会 長	平田 裕一	代表理事 / 至学館大学副学長
公 1 正	今井 正裕	業務執行理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長
公 1 副	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
公 2 正	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
公 2 副	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社) SATOYAMAそだち 代表理事
公 3 正	野口 和行	業務執行理事 / 慶應義塾大学 教授
公 3 副	青木 康太朗	國學院大學 教授
法総 正	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
法総 副	下川原 清貴	北海道キャンプ協会 常任理事 / (特非)コミュニティワーク研究実践センター 副センター長
法総 副	吉松 誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長 / (株)マベック

(公1)ビジョン推進委員会(グッドキャンパーキャンペーンタスク含む)

委員長	今井 正裕	業務執行理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長
副委員長	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
委 員	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
委 員	高見 彰	日本キャンプ協会顧問 / 関西国際大学 教授
委 員	吉松 誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長 / (株)マベック
委 員	田丸 良明	石川県キャンプ協会 事務局次長
委 員	田中 廣喜	NHK仙台放送局

(公1)CAMPING 編集委員会

委員長	今井 正裕	業務執行理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室室長
副委員長	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
委 員	翠尾 由美	港区立麻布子ども中高生プラザ 副館長
委 員	山梨 雄一	東京YMCA社会体育・保育専門学校 校長
委 員	山本 直輝	(公財)ハーモニセンター 理事・事務局長補佐
委 員	吉松 梓	明治大学 准教授

(公1)朝霧野外活動センター運営委員会

委員長	星野 敏男	日本キャンプ協会 顧問 / 明治大学 名誉教授
委 員	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
委 員	井出 暢一	朝霧野外活動センター 所長
委 員	齋藤 祐幸	朝霧野外活動センター 副所長
委 員	太田 正義	朝霧野外活動センター コーディネーター
委 員	櫻井 良樹	朝霧野外活動センター 事業課長

(公2)指導者養成委員会

委員長	吉田 理史	(株)SOUP スタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
委 員	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学 非常勤講師
委 員	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
委 員	渡邊 仁	筑波大学 体育系 助教
委 員	伊原 久美子	大阪体育大学 教授

(公2)安全対策委員会

委員長	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
副委員長	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
委 員	寺田 達也	ひの社会教育センター地域コミュニティ部 次長
委 員	鈴木 千琴	済生会横浜市東部病院
委 員	稲垣 尊仁	森・濱田松本法律事務所 弁護士
委 員	徳田 真彦	大阪体育大学体育学部 講師

(公3)研修・研究委員会

委員長	野口 和行	業務執行理事 / 慶應義塾大学 教授
副委員長	青木 康太郎	國學院大学 教授
委 員	中丸 信吾	日本女子体育大学 准教授
委 員	熊澤 桂子	東京教育専門学校 専任講師
委 員	佐藤 冬果	東京家政学院大学 助教
委 員	石川 大晃	(一社)地域・社会子育て若者支援 代表理事

(法人事務)総務委員会

委員長	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
副委員長	吉松 誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長 / (株)マベック
委 員	神崎 清一	日本キャンプ協会 顧問 / 京都府キャンプ協会 会長
委 員	神谷 稔	(公財)日本アウトワード・バウンド協会 理事

(法人事務)ブロック連携委員会

委員長	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
副委員長	下川原 清貴	北海道キャンプ協会 常任理事 / (特非)コミュニティワーク研究実践センター 副センター長
委 員	佐藤 誠	北海道・東北ブロック理事 / (一社)宮城県キャンプ協会 会長
委 員	佐藤 繁一	関東ブロック理事 / (特非)東京都キャンプ協会 理事・事務局長
委 員	田丸 千佳	中部・北陸ブロック理事 / 石川県キャンプ協会 事務局長
委 員	三木 秀人	近畿ブロック理事 / 兵庫県キャンプ協会 副会長
委 員	小椋 聖也	中国・四国ブロック理事 / 岡山県キャンプ協会 事務局長
委 員	村上 彰一	九州・沖縄ブロック理事 / 長崎県キャンプ協会 理事長

(法人事務)正会員候補者推薦委員会

委員長	井上 透	外部委員 / 岐阜女子大学 教授
委 員	平野 吉直	監事 / 信州大学 名誉教授
委 員	今井 正裕	正会員 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長
委 員	百武 博文	正会員 / 佐賀県キャンプ協会 理事長
委 員	依田 智義	事務局長

役員編成検討タスク

タスク長	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
メンバー	高見 彰	日本キャンプ協会 顧問 / 関西国際大学 教授
メンバー	小田 原一記	(公財)日本レクリエーション協会 専務理事・事務局長

資格制度検討タスク

タスク長	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
メンバー	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学 非常勤講師
メンバー	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
メンバー	渡邊 仁	筑波大学 体育系 助教

カリキュラム検討委員会 2026 年 3 月より

委員長	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
委員	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学 非常勤講師
委員	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
委員	渡邊 仁	筑波大学 体育系 助教
委員	伊原 久美子	大阪体育大学 教授

(2026 年3月 31 日現在)

公益社団法人日本キャンプ協会 職員

事 務 局 長	依 田 智 義
事務局次長	秋 山 千 草
主 事	松 橋 由 起
主 事	蒲 健 吾
主 事	北 川 聖
主 事	三 田 志 穂

静岡県立朝霧野外活動センター 職員

所 長	井 出 暢 一
副 所 長	齋 藤 祐 幸
コーディネーター	太 田 正 義
事 業 課 長	櫻 井 良 樹
指 導 職	向 島 克 明
指 導 職	立 林 雅 貴
指 導 職	西 原 健 太
指 導 職	田 邊 佳 穂
指 導 職	伊 東 茉 耶
指導職補助	北 條 友 加 里
パートタイマー	杉 山 奈 都 子
パートタイマー	大 崎 健 太



NCAJ

National Camping Association of Japan

〒151-0052

東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

TEL:03-3469-0217 FAX:03-3469-0504

E-mail:ncaj@camping.or.jp

URL:<https://www.camping.or.jp>